

思惟の庭



「旅する小さな家」作者・協力者：水谷隼人、山本恭代、山崎千恵／美術インスタレーション：平田五郎／創作ダンス：①振付・出演：江積志織 ②振付：樫川真理子、出演：多田直子、樫川真理子 ③振付：桜井陽、出演：海保文江、藤井彩加、上村有紀、東伊都美、桜井陽 ④振付：愛智伸江、出演：愛智伸江、高橋純一

「旅する小さな家」と「ヒアシンスハウス」。
この二つの小さな家は戸口を向き合わせて建ち、小さな前庭を共有していました。別所沼公園の中に出来上がったこの庭は、その日、いつものお散歩広場から「思惟の庭」へと変貌しました。

11月9日、4人のコレオグラファーによるダンスパフォーマンス「旅する小さな家」は、この前庭を中心に上演されました。はじめの作品では、ダンサーが「旅する小さな家」の高さ60センチの戸口から這い出し、地面を転がり、再び這いつくばり、もがき、歩みだし…。「人は、なぜ旅に出ようとするのか?」という、そのかすかな理解を、見ている人々の心に落として行きます。

次の作品では、2名のダンサーが二つの家の住人に扮します。彼女たちは、相反する感情を併せ持ちながら営むたわいのない日々を、小さな庭の中で踊ります。それを見ている観客の様々な心は、ダンサーの抱く複雑な心と共に小さな庭から広い空へと解き放たれ、その後、両者の視点は穏やかな営みに戻されます。

三つ目の作品では、音楽の流れと共に空間は都会の町のようになり、二つの小さな家は空々しい硬い建物と化してしまいます。5人のダンサーは、その街を生き活きと行き交うように踊り、どこを目指すともなく進み続け、最後にはもっと広い世界に向かって歩き去ってしまいます。残された観客は、はじめて、この二つの建物のある空間に疑問を抱きます。

…と、そこに、一人の女性が「ヒアシンスハウス」の窓を閉め、ゆっくりと、確かめながら外に出てきます。家を出て人々と交わる為に、或いはたった一人の人とつながる為に…。これは、最後の作品の始まりです。色々な疑問、いろいろな思い、様々な決断を下しながらダンスは進行して行きます。やがて、ダンスは女性から男性へと受け継がれ、小さな庭を訪れた男性は片方だけ靴を脱ぎ、土と露と草を受け入れ、思惟の世界へと入ります。

この4作品による45分間のダンスパフォーマンスに立ち会いながら、「ヒアシンスハウス」を設計した立原道造は、この場が人々の思惟する場に変貌することを望んでいたのではないかと想いました。



完成披露された「旅する小さな家」

今、私が述べたダンス作品の解釈は私個人のもので、作者の意図とは違うかもしれません。共に見ている皆さんとも異なるでしょう。しかし、それぞれの人がそれぞれの背景と夢を心に秘め、インスタレーションや自然やパフォーマンスの中で思惟の世界を泳ぎ、得た感想は、立原道造のみならず、多くの芸術家を目指す心の宝玉なのだと思います。

計画当初からたくさんの人々の思惟が生まれ、思惟の庭を創り上げたこのイベントを、貴い出来事として記憶にとどめたいと思います。
(K.F)

お知らせ!

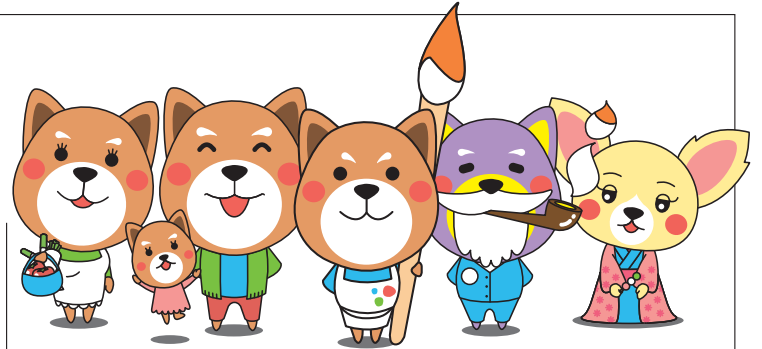
SMFアートのまつり/

2015年1月12日(月・祝) 宮代町 進修館(小ホール・研修室)
展示あり、パフォーマンスあり、バザールあり、パーティーありのにぎやかな「アートのまつり」開催!

きたうらワンFamily いよいよお披露目!



「きたうらワン」って、家族はいるの? そもそも男の子、女の子?? 考えるほど謎は深まるばかり。そこで、街の人に考えてもらってはどうか? ということで今年の企画「きたうらワンFamilyを探せ!」が立ち上がりました。9月20日に北浦和西口銀座商店街で開催する「アート日和@北浦和」での展示を目指してFamilyのデザイン画を募集したところ、商店街の方々や常盤小学校の協力を得て54点のデザイン



ン画を応募していただくことができました。

「アート日和@北浦和」では、ゲルを中心に展開する縄文WSや、詩の朗読、ダンスパフォーマンスなど多彩な企画が展開し、その内の一つとして、ご応募いただいた全てのデザイン画を屋外に展示するとともに人気投票を行いました。当日は、これらのイベントと併せて商店街企画「ちびっ子広場」も開催され一日で述べ7000人の来場者を数える大賑わいとなり、デザイン画についても200を超える投票をいただきました。イベント終了後に票数を集計し、上位20点を入賞作品として選出、更に上位3点をFamily候補として認定しました。そしてこの3枚のデザイン画を基に「きたうらワン」の生みの親であるデザイナーの中澤宏美さんにReデザインをお願いしました。

Familyのお披露目と入賞者への記念品贈呈式は、10月26日に商店街の川口信用金庫ATMコーナーで実施しました。当日は商店街イベント「ハロウィンジャック2014」も開催されていて、思い思いの扮装をした親子連れが20組ほど集まり、華やいだ雰囲気にも包まれるなか、式が執り行われました。お披露目の後、入賞者には賞状と記念品のきたうらワンTシャツ(サッカーバージョン)が贈られ、みなホクホクの笑顔浮かべていました。

今回無事、家族を得た「きたうらワン」は、今まで以上に北浦和の商店街を盛り上げるため頑張っています。これからも「きたうらワン」とその家族をよろしく願います!(S.I)

SMFアート長屋! ただいま準備中!

このたび、SMFでは、あらたにインターネット上にアート・プラットフォーム「SMFアート長屋」を開設するための準備に取りかかっています。この「SMFアート長屋」は、様々な方たちでアートに関わりや関心を持たれている方々のウェブ上の住空間をイメージしたものです。

アートを創り出したり、鑑賞したり、あるいはその普及に携わったりすることはもちろんですが、それだけではなく、日々の生活の中で様々な発想を掘りながらちょっとした工夫を凝らしていくこともアーティスト的なことと考えられます。したがって、このウェブ空間は、アーティストが自身の活動や作品を紹介することだけが目的ではなく、ワークショップに参加してアートに触れてみたい方々や、これからアーティストを目指す方々、日常の生活のなかでちょっとしたアーティスト的な工夫を凝らしている方々、日常生活で何かを発見することが好きな方々など、

アートに興味がある人ならば誰でも入居することができます。入居者は簡単な自己紹介や、自分ができごと、したいこと等を書いたり、自身の作品や活動、日々の生活での工夫、発見したこと等を写真で紹介し、その紹介スペースが入居者の居住区画となります。

SMFのステートメントにもあるような、「さまざまな生き方をしてきた人が集い、触れ合いながら、まだ見たことも聴いたことも経験したことのないようなモノゴトを創り出す」アート長屋に、ぜひ入居してみませんか? 入居方法やウェブ上のリンクは今後SMFホームページなどでお知らせいたします。(T.S)



連携美術館情報

人間市博物館 アリット

「第18回 むかしのくらしと道具展」
2015/1/7~2/17

昭和初期と昭和30~40年代の二つの時代を取り上げ、当時の生活用具や写真を多数展示します。会期中は関連事業ももりだくさん!

うらわ美術館

「ルーヴル美術館の銅版画展—カルコグラフィコレクション」
11/15~2015/1/18

「銅板に描かれた」という意味を持つカルコグラフィ。ルーヴル美術館のコレクションの中から、日本での特別公開のために、当時の貴

重な原版を用いて刷られた銅版画約130点を紹介します。あわせて、当館所蔵の本の挿絵として刷られた銅版画も一部展示します。

川口市立アートギャラリー・アトリア

「アート年賀状展2015」

2015/1/8~1/25

今年度8回目を迎える市民参加型の展覧会。1枚のはがきに気持ちを込めたオリジナルの年賀状を募集し、一堂に展示します。手づくりの味わいをお楽しみください。

川越市立美術館

「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで」

埼玉県立近代美術館の逸品大集合!

2015/1/24~3/15

モネ、ルノワール、ピカソ、草間彌生、李禹煥、中西夏之……。西洋および日本の近代から現代に至る珠玉の美術作品を一堂に公開します。(A.O)

埼玉県立近代美術館

9月1日から来年4月10日まで、改修工事のため休館となります。休館中の展示活動やワークショップ等については、当館ホームページやTwitter(@momas_kouhou)、Facebook(facebook.com/momaspr)をご覧ください。

